

ナイスケアだより

第108号
令和3年5月発行

5月13日に認知症の方の介護者を対象とした『ケアマネジャーとの上手な付き合い方』という講義を地域で行うことになりました。政府は緊急事態宣言を延長する方向で検討しているため日程は延期になりそうですが、介護されているご家族の苦労はケアマネジャーとして痛感しており、少しでも力になればと思って引き受けました。

私自身が考える信頼できる理想のケアマネジャーは以下の三点があります。

一点目は、じっくり親身になって話を聞き、解決策と一緒に考えてくれる姿勢を持った人です。この姿勢をもっているかどうかで信頼感は全然違います。一緒に考えてくれるだけでも安心感が違うと思われまます。

二点目は、自立支援を意識し、自身でできることを活かす提案を持てる人がよいです。自立支援の視点がないと長い目で見たときに本人のできないことが増え、早く体の機能を低下させてしまう恐れがあります。

三点目は、利用者の皆様の個別性を理解する努力の意識が持てる人です。人それぞれの価値観や生活スタイルを尊重し、個別性に合ったケアプランの提案ができる人がよいです。

私自身もケアマネジャーとしてこれらのことが実践できるように日々意識しながら仕事に励み、少しでも近づけるように努力していきます。



有限会社ナイスケア 代表取締役 塩川 隆史

～新宿区の花『つつじ』～

桜が散り、街には『つつじ』が沢山咲いていますね。皆様ご存じでしょうか？『つつじ』は新宿区の花です。

江戸時代の頃、百人町の地名の由来でもある百人組の武士達が鉄砲撃ちの練習のかたわらでつつじを育て始めたことから、大久保はつつじの名所となり始めました。

幕末から明治維新の頃にかけてつつじ作りは一時衰退したものの、地元の有志達が保存活動を起こしてつつじの増殖に努め、花は70種類、数は1万株を超える程になりました。そしていくつものつつじ園が開設され、多くの見物客で賑わうようになりました。

しかし大正から昭和の頃になると、鉄道の拡幅や震災後の宅地開発等の影響でつつじ園が廃止になってしまいました。これらのつつじの関わりから、昭和47年10月に新宿区の花をつつじとしたそうです。



春はつつじ以外にもいろんな花が咲いています。コロナの影響で遠出ができないご時世ですので、ご近所での買い物や散歩の際にお花を観賞をされてみてはいかがでしょうか。私は訪問の移動中、自転車に乗りながら花に目をむけ春を感じています。

小松 昌美